朝小・サピックス共同企画

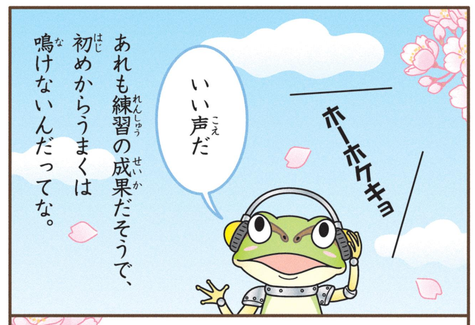
地球環境を考える eco のとびら ～ヒトと生き物の話～

シニア版

■企画・編集
SAPIX環境教育センター
www.sapientica.com/eco/
SAPIX YOZEMI GROUP

テーマ
鳥害

キャラ紹介 AG-2　アマガエル 人工知能を持つ

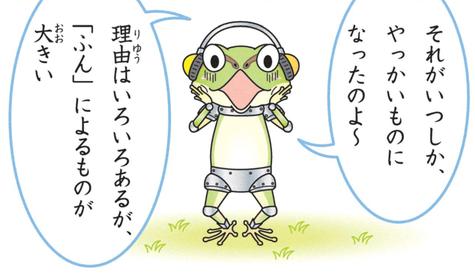


あれも練習の成果だそうで、初めからうまくは鳴けないんだってな。

ウグイスと間ちがえられるメジロは梅がさくころから、よく見かけられ、ヒトにとって人気のある鳥だ。美しい声や姿の鳥はたいていのヒトに好かれるらしい。

一方、こちらはカラスと同様やっかいものになっているハト。ハトは種類が多い。よく見かけるのはカワラバト。雑食で、あまりヒトをこわがらず、まちなかにすみついている。

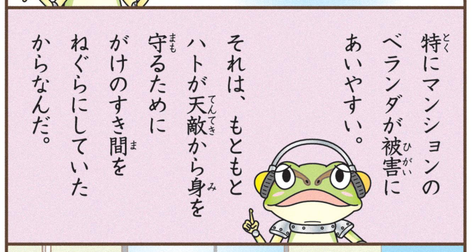
平和の象ちょうでもあり、伝書バトとして通信に利用でき、大事にされていたこともあった。



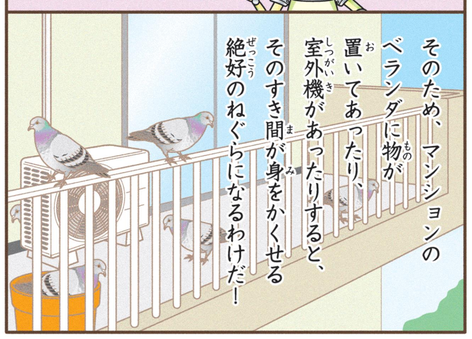
ハトのふん害

- 大量でにおいが不快。
- 洗たく物や公園のベンチ、すまいの外かべがよごれる。
- ふんの中にいる菌や寄生虫がヒトにうつり、感染しょうを引き起こす。
- ふんを放置したままにすると、金属がくさったり、はい水こうにふんがつまったりする。

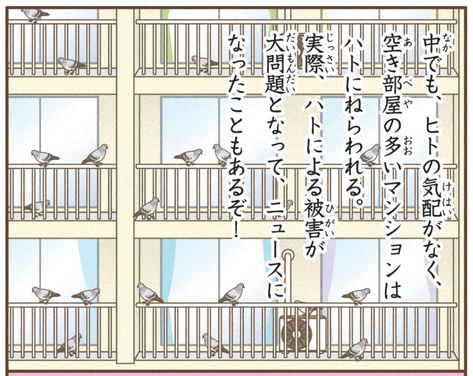
そのほか、鳴き声や羽音、羽根がまいちるのが気持ち悪い、巣を作られ、ひながかえってめいわくなどなど……。



特にマンションのベランダが被害にあいやすい。それは、もともとハトが天敵から身を守るためにがけのすき間をねぐらにしていたからなんだ。



そのため、マンションのベランダに物が置いてあったり、室外機があったりすると、そのすき間が身をかくせる絶好のねぐらになるわけだ！

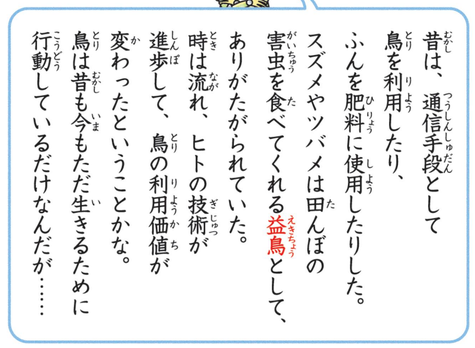


ハトは伝書バトになるぐらいだから、巣にもどる能力が非常にすぐれていて、何度追いはらっても、またしつこくもどってくる。

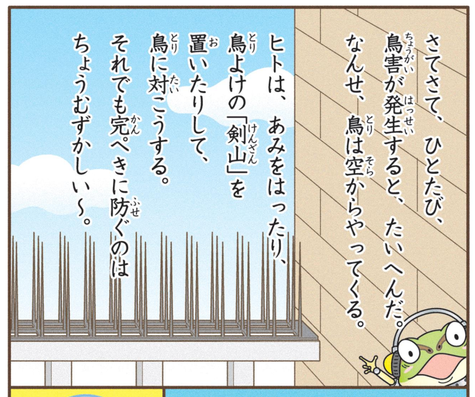
ハト以外にも鳴き声やふんの被害が問題となる鳥といえば、サギだ。サギは最近、住宅地、ふきんでもねぐらや巣を作る。池のある公園でも、その大きな姿が見られる。

サギは群れで巣を作る種類が多いため、子育て期間中は、ひなが24時間鳴き続け、ヒトはうるさくてたまらないとか。すみつかれた木はふんで真っ白。近くの池や田んぼでは魚やおいらの仲間のカエルが食べつくされる。

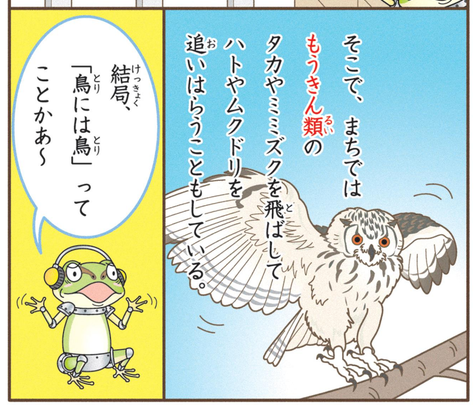
こういった鳥による問題を「鳥害」というんだ。カラスはもとより、ムクドリやウミネコ、そして、スズメやツバメもその対象になることがある。



昔は、通信手段として鳥を利用したり、ふんを肥料に使用したりした。スズメやツバメは田んぼの害虫を食べてくれる益鳥として、ありがたがられていた。時は流れ、ヒトの技術が進歩して、鳥の利用価値が変わったということかな。鳥は昔も今もただ生きるために行動しているだけなんだが……



さてさて、ひとたび、鳥害が発生すると、たいへんだ。なんせ、鳥は空からやってくる。ヒトは、あみをはったり、鳥よけの「剣山」を置いたりして、鳥に対こうする。それでも完ぺきに防ぐのはちょうむずかしい～。



そこで、まちではもうきん類のタカやミミズクを飛ばしてハトやムクドリを追いはらうこともしている。

AG-2のクイズリーグとその答え

② 数百万羽で渡りをしていたハト。食用のために狩られてせつめつしした。アオバトは海水を飲むところが有名。キツバトは色がたいへん美しく、日本ではせつめつせん種。

今月のキーワード

雑食
植物性の物も動物性の物も食べること。

伝書バト（鳩）
あしに手紙をつけて、通信に利用したハトのこと。遠くからでも巣にもどるハトの性質を利用していた。軍たいや新聞社などで使われ、戦争中では、つばさやあしが傷ついても目的地にたどり着いたという。現在は、レースに使われている。

益鳥
害虫をとったり、花粉を運んだりして、ヒトの役に立つ鳥。

もうきん類
他の動物をつかまえて食べるために、よく見える目、するどいつめとくちばし、じょうぶなあしを持つ鳥のこと。昼に活動するタカと夜に活動するフクロウの仲間に分けられる。

AG-2のマンスリークイズ

Q. ハトの仲間で、1914年にぜつめつしたのはどれ？

❶アオバト
❷リョコウバト
❸キンバト

（答えは紙面のどこかにあるよ）

コネタ

ハトのこぼれ話

鳥のひなはたいてい親から虫や、小動物を食べ物としてもらって育つ。ところが、ハトはのどから栄養がたっぷりつまった液体を出してひなに与えるんだ。それがピジョンミルク。なんと、ピジョンミルクはオスも出すことができるんだ！

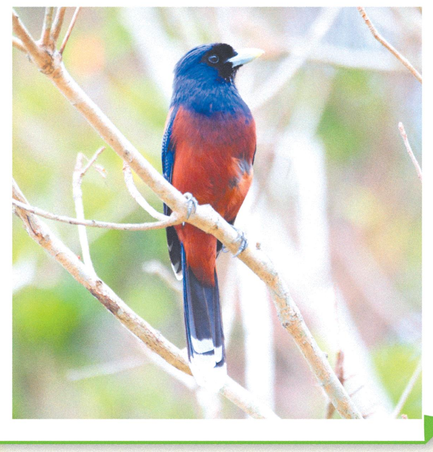
それがハトの強み。だってさ、冬場、昆虫が少ない時期でも子育てができるんだからね。そのため、ハトは増えやすい。それでも、カラスにおそわれる、事故にあうなどして、じゅ命を全うできるものばかりではない。そうして、適切な数が保たれていくことを考えれば、ハトだけでなく野鳥にえさやりをして、生きのびやすくすることはせず、見守ることが大切だね。

SAPIX 小学部 からのお知らせ

理科と社会が“もっと”すきになる「エコのとびら2」

好評販売中！
既刊も
大好評だった「エコのとびら」の続編。あらたにセレクトした12本を収録。身近な環境問題をマンガで楽しく学ぶ。めいろや新コーナーが登場、パズルの付録付き。
オールカラー112ページ（B5判）
定価：1320円（税込）
企画・編集：サピックス環境教育センター
発行：代々木ライブラリー

日本の固有種



ルリカケス

鹿児島県の奄美大島にいるカラスの仲間。ハトと同じぐらいの大きさで、植物や木の実、昆虫などを食べる。あざやかなルリ色の羽が特徴。

「ecoのとびらシニア版」は毎月第4木曜日にけいさい予定です。